

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「次代の地域社会における良識ある担い手」を育成するため、生徒一人ひとりに次の4つの力を育み、生徒の自己実現を支援する総合学科高校をめざす。

- 1 自らが学び、考え、表現し、主体的に行動できる力
- 2 将来の目標を具体的に設定し、それに向かって努力する力
- 3 人や地域とのつながりを大切にし、地域社会の発展に貢献できる力
- 4 豊かな人権感覚を身に付け、より良い人間関係を築くことのできる力

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
 - (1) 生徒が授業内容に興味・関心を持ち、「わかる」授業づくりを進めるとともに、朝学習の時間を利用した振り返りを行うことで、基礎学力を定着させ、自ら学習する態度を身に付けさせる。
 - ア 教務部と首席を核に、公開授業、研究授業及び授業アンケート等を活用した授業改善に組織的に取り組むとともに、観点別評価の試行を進める。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「授業はわかりやすい」の肯定率が令和4年度で85%以上。(H29年度63.0%、H30年度67.9%、令和元年度74.6%)
 - イ 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし授業の工夫・改善を図るとともに、観点別評価に取り組み、定期的な校内研修で課題の共有、改善を図る。
 - ※ 総合学科アンケートをベースに本校独自のアンケートを実施。「知識や理解力が身についた」等の肯定率が令和4年度で85%以上(H29年度66.0%、H30年度68.2%、令和元年度73%)。
 - (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分で調べ、考え、表現・発表する力を育てる授業を行う。
 - ア 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間(GS)」の取組みと各教科の指導を連携させて、グループワーク等の協同学習を推進し、生徒の学習活動を充実させることにより、生徒が自ら学習する態度を育む。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「授業では、自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が令和4年度で75%以上。(H29年度50.3%、H30年度53.3%、令和元年度64.7%)
 - ※ 本校独自のアンケートを実施。「考える力や表現する力が身についた」の肯定率が令和4年度で85%以上。(H29年度61.4%、H30年度60.8%、令和元年度73%)
 - イ GSの取組みと教科学習の中で、発表する機会を設け、段階的な実施により、生徒のプレゼンテーション能力を高め、課題研究の発表会の充実を図る。
 - ※ 本校独自のアンケートを実施。「プレゼンテーション能力が身についた」の肯定率が令和4年度で80%以上。(H29年度50.0%、H30年度50.0%、令和元年度64%)
- 2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成
 - (1) 理解・納得に基づく生活習慣の形成及び規範意識の醸成とともに、高校生として望ましい態度とマナーを育成する。
 - ア 遅刻等の状況を改善するとともに、授業規律を確立させる。
 - ※ 遅刻件数を令和4年度には4,000回以下とし、それ以降も毎年減少させる。(H29年度5,321回、H30年度4,826回、令和元年度5,985回)
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「授業では騒いだり私話したりする生徒はほとんどいない」の肯定率が令和4年度で60%以上。(H29年度22.9%、H30年度27.3%、令和元年度30.6%)
 - イ 「ダメなものダメ」の指導方針を教職員全体で共有しつつ、画一的に罰則を与える指導ではなく、個々の生徒の課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取った、対話を重視した生徒指導を行う。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率が令和4年度で80%以上(H29年度58.9%、H30年度63.2%、令和元年度70.0%)、「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定率が令和4年度で75%以上。(H29年度62.1%、H30年度61.1%、令和元年度63.2%)
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率が令和4年度で75%以上(H29年度42.3%、H30年度47.0%、令和元年度46.5%)
 - (2) 修正を加えた進路指導計画に基づき、1年次からのキャリア教育の充実を図るとともに、進路意識を高めること等を通して自己実現を支援する。
 - ア 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間(GS)」の取組み等を通して、進路目標を具体的にもたせるとともに、自己の努力目標を明確にさせる。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率が令和4年度で90%以上。(H29年度76.4%、H30年度77.9%、令和元年度81.1%)
 - ※ 本校独自で実施する進路実績満足度及び進路決定率(3月末)とも毎年90%以上。「満足度」H29年度89.7%、H30年度93.9%、令和元年度91.8%、「12月末現在決定率」H29年度87.2%、H30年度83.7%、令和元年度85.8%)
 - イ 資格取得の支援やインターンシップの内容充実にも努めるとともに、進学希望生徒の増加を踏まえ、計画的講習など適切な学習機会の提供を行う。
 - ※ 「漢検」等の資格取得者：毎年の合格率を維持、インターンシップ単位認定者：毎年20名程度を維持。(H29年度25名、H30年度27名、令和元年度15名)
- 3 安全安心で魅力ある学校づくり
 - (1) 生徒一人ひとりが自らの課題に向き合い課題を解決しようとする意欲を育み、他者を大事にして生徒同士がつながる取組みを推進する。
 - ア 生徒の学校生活満足度を高め、自分自身も他者も大事にしていく意識を育む集団づくりの取組みを一層推進する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定率が令和4年度で75%以上、「自分の学級は楽しい」が85%以上。「高校に行くのが楽しい」H29年度61.8%、H30年度57.4%、令和元年度63.1%、「学級は楽しい」H29年度68.9%、H30年度67.3%、令和元年度72.2%)
 - イ 校内の環境及び施設設備を充実させ、部活動を活性化させる。
 - ※ 部活動の加入率を令和4年度で40%以上。(H29年度39.1%、H30年度38.2%、令和元年度33.4%)
 - (2) あらゆる教育活動を通じて、生徒の人権を大切にしたい指導を徹底するとともに、人権教育を計画的・総合的に推進する。
 - ア 策定した3年間を見通した計画に基づき、人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決をめざした教育活動を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率が令和4年度で75%以上。(H29年度49.5%、H30年度58.9%、令和元年度65.1%)
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率が令和4年度で90%以上。(H29年度67.4%、H30年度71.9%、令和元年度76.8%)
 - イ 生徒の個別の状況を把握、共有し、個に応じた適切な指導を、組織的にカウンセリングマインドをもって行い、SCやSSWの活用及び外部連携を図り、生徒の状況の改善に努める。
 - (3) 地域等とつながる取組みを進め、さらに、保育所介護施設等との連携を深め、地域社会に貢献する意識を醸成する。
 - ア 地元和泉市や近隣の学校園等と連携する取組みだけでなく、生徒が地域の保育所や介護施設、小学校で行う取組みを授業に活用する。
 - ※ 地域のあいさつ運動・清掃活動、支援学校・保育所交流等を継続するとともに、保育所や介護施設等との連携を深め、学習活動の充実を図る。
- 4 教職員の組織的・継続的な人材育成等
 - (1) 教職員の組織的・継続的な育成を行う。
 - ア 教職経験年数の少ない教職員を研究授業及び校内研修の機会や分掌業務等のOJTを通して、学校全体で育成する。
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)の「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」の肯定率が令和4年度で80%以上。(H29年度45.2%、H30年度53.3%、令和元年度52.9%)
 - イ 概ね10年までの教職経験年数の教職員を学校組織の中核として配置し、課題解決を意識した業務遂行等を通して、ミドルリーダーを育成する。
 - (2) 教職員の働き方を改革する。
 - ア 教職員の長時間労働を改善するため、業務全般を見直し、分掌業務の改善を図るとともに、教職員に業務の工夫・改善を促す。
 - イ 大阪府部活動の在り方に関する方針に基づき、適切な部活動の実施を徹底し、部活動による長時間勤務の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○学習指導に関して 授業はわかりやすい、楽しい、教え方に工夫している先生が多いなど授業に関する設問の肯定率はすべて向上しており、この3年間増加傾向を維持できている。しかし、授業中の私語などについては生徒の否定的評価が依然 64%近くとなっており、主体的で対話的な深い学びの達成に向け、適切な授業の方法や授業内容の改善が必要である。</p> <p>○生徒指導等に関して 生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立については、肯定率が76%と前年比+13ポイント、指導に納得できるという肯定率も58%と+12ポイント。学校・学級が楽しいと答える生徒は前年度(+6)よりさらに2ないし5ポイント増加はしたが、個に応じた生徒対応の徹底により納得感のある指導が重要である。</p> <p>○人権教育に関して 「人権について学ぶ機会がある」が85.9%と+9.1、「学びたいことに答えている」も73.5%と+8.4ポイントアップ。人権教育の3年計画が機能していると思われる。今後も継続的に実施していくことが重要である。</p>	<p>第1回(令和2年6月30日書面開催) ○学校全般について ・コロナ禍の中、保護者の困窮や、生徒自身がアルバイトを失うなど、生活環境にも大きな影響を及ぼしている、また今後さらに深刻になると思われるので、気がかりである。 ○授業規律等、遅刻数について ・遅刻数が増加している背景や要因について、状況分析が必要。また、否定的な回答をしている生徒がどのような生徒なのか分析できるような調査の工夫が必要ではないか。</p> <p>第2回(令和2年11月7日) ○生徒の様子について ・授業見学では、服装や頭髪などきちんとしている、以前に比べ非常に落ち着いている。 ・総合学科になって、大学受験のメリットなどはあるのか。大学を目指す生徒層を広げる必要があるのではないか。</p> <p>第3回(令和3年2月27日) ○自己診断等の多くの項目の数値が上向きになり、生徒から信頼されるようになってきているのはよいこと。ただ、校長が変わり低下することにならないような工夫をお願いする。 ○キャリア教育、職業間の育成については学校の取組みを期待している。就職した生徒の追跡はできているが、専門学校等の進学者の追跡を望む。Lineの活用はできないか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1)「わかる」授業づくりと基礎学力の育成 ア 組織的な授業改善 イ 基礎学力の定着と学習意欲の向上 (2)「主体的・対話的で深い学び」の推進 ア 協同学習の効果的活用と充実 イ 発表機会の充実、スキルの向上	(1) ア・研究授業・公開授業の積極的な実施と教員研修・協議を連動させ、確実な授業改善及び観点別評価の意識醸成を図る。 ・「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」(GS)の取組みと各教科の授業方法の連動により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を推進する。 イ・朝学習とGSの連動により、学習意欲の向上と、基礎学力の定着をめざす。 (2) ア・GSと連動させ、グループワーク等の協同学習の効果的活用と充実を図る。 イ・GSと連動させ、生徒のプレゼンテーション能力の育成を段階的、計画的に実施する。	(1) ア・研究授業等15回以上(令和元年度15回) ・学校教育自己診断(生徒)「授業はわかりやすい」の肯定率80%以上(令和元年度74.6%) ・授業力向上、授業改善のための研修等4回(令和元年度4回) イ・独自アンケート「知識・技能が身についた」の肯定率78%以上(令和元年度3年生73%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率70%以上(令和元年度64.7%) ・独自アンケート「考える力や表現する力が身についた」の肯定率78%以上(令和元年度3年生73%) イ・独自アンケート「プレゼンテーション能力が身についた」の肯定率70%以上(令和元年度3年生64%)	(1) ア・研究授業は15回実施、研修は3回実施した。肯定率は76.9%と改善。次年度も継続して改善に取り組む。(△) イ・肯定率は87.7%。学力向上のため、次年度も指導方法の改善に継続して取り組む。(○) (2) ア・「機会がある」の肯定率は71.8%、「身についた」の肯定率は88.7%と改善。さらに授業改善に努める。(○) イ・肯定率は81.8%と改善。GSの効果的な活用と各教科の授業改善により、さらなる向上を図る。(○)
2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成	(1)理解納得に基づく生活習慣の形成、規範意識の醸成に係る取組みの推進 ア 遅刻指導の工夫と授業規律の確立 イ 生徒理解にたった個に応じた生徒指導の充実 (2)1年生からのキャリア教育の充実 ア 進路目標の早期設定の取組み イ 資格取得支援とインターンシップ充実と進学向け学習機会の提供	(1) ア・GS、朝学習等の取組みと連動させ、基本的な生活習慣について生徒の認識を高め、遅刻件数の減少や規範意識の醸成をめざす。 ・授業の大切さやともに学ぶ意識を醸成することで、授業中の私語等を減らし、授業規律を確立させる。 イ・画一的罰則によらず、生徒の状況把握、理解、共有により、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導をより進めていく。 (2) ア・3年間の進路指導計画に基づき、ガイダンス機能を充実させ、将来の就労を意識した具体的な進路目標をもたせ、継続して努力する力を育てる。 イ・資格取得のための取組みを充実させる。 ・インターンシップの内容を充実させる。 ・進学のための指導・取組みについて、講習等を組織的、継続的に実施する。 ・勉強合宿等の内容をより充実させ、参加者の増をめざす。	(1) ア・遅刻件数4,600回以下(令和元年度5,985回) ・学校教育自己診断(生徒)「騒ぐ・私語する生徒なし」の肯定率40%以上(令和元年度30.6%) ・学校教育自己診断(生徒)「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定率70%以上(令和元年度63.2%) イ・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率75%以上(令和元年度70.0%) ・学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率55%以上(令和元年度46.5%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方を考える機会がある」の肯定率80%以上(令和元年度77.7%) ・進路実績満足度90%以上(令和元年度91.8%) ・進路決定率90%以上(令和元年度85.8%) イ・「漢検」等の資格試験の合格率を維持 ・インターンシップ認定者20名程度を維持(令和元年度15名) ・勉強合宿の生徒満足度95%以上(令和元年度100%)、参加者20名以上(令和元年度20名)	(1) ア・遅刻件数は6,834回。肯定率は「私語なし」が36.2%、「習慣の確立」が76.1%と数値は向上したが、「私語なし」は目標に届かず。授業改善および指導の徹底を図る。(△) イ・肯定率は「相談に」が81.6%、「納得できる」が57.7%と目標にとどいた。生徒へのかかわり方について、より改善、定着を図る。(△) (2) ア・肯定率は85.2%、満足度91.4%と目標達成(○)。決定率は80.6%、コロナの影響で、進学希望から就職に変更した生徒など、未定の就職希望者10名程度が2月まで残った。(一) イ・資格合格率は67%、インターンシップ、勉強合宿ともにコロナで未実施。(一)
3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1)生徒が他者を大事にして生徒同士がつながる取組み ア HR活動及び学校行事の充実 イ 部活動の活性化 (2)人権教育の推進 ア 様々な人権課題の解決を推進 イ 個別の支援が必要な生徒への対応 (3)地域等とつながる取組み ア 地域等との連携及び授業への活用	(1) ア・学年や学級を基本に他者を大事にして、生徒たちがつながることを意識した活動を工夫し充実させる。 ・学校行事において、生徒が企画し運営するなど、生徒のリーダーシップを育成できるように、内容や実施方法を工夫し充実させる。 イ・校内環境や施設を整備し、部活動の活動や発表の場を充実させる。 (2) ア・3年間の人権教育計画に基づき、様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決をめざした教育活動を推進する。 イ・人権上配慮の必要な生徒等について、週1回の会議及び対応検討会議(不定期)を活用し、SCやSSW、外部との連携を組織的にを行い、個別の支援を適切に行う。 (3) ア・現行の取組みを継続し、特に中学校との連携を充実させるとともに、保育所や介護施設、小学校等や大学・専門学校等の連携により授業の充実を図る。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「高校が楽しい」の肯定率68%以上(令和元年度63.1%)、「学級は楽しい」の肯定率77%以上(令和元年度72.2%) ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しい」の肯定率88%以上(令和元年度84.3%)、「体育祭は楽しい」の肯定率80%以上(令和元年度76.4%) イ・部活動加入率38%以上(令和元年度33.4%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率70%以上(令和元年度65.1%) ・学校教育自己診断(生徒)「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率85%以上(令和元年度76.8%) イ・生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行う。SCやSSWを活用し、具体的な対応により状況を改善する。また、ケースについて研修を実施し、共有を図る。 (3) ア・地域、中学校等との連携行事への継続参加、学校独自の地域清掃活動等の実施。(令和元年度26回) ・地域、保育所、介護施設、小学校、専門学校や大学と連携した取組みの授業への活用70回以上を維持。(令和元年度70回)	(1) ア・「高校が楽しい」は65.0%、「学級は楽しい」が76.9%と最高値を更新、目標にはやや足りないが、個に応じた生徒対応の成果が見えてきた。行事肯定率は文化祭81.4%とコロナによる縮小開催の影響。体育祭81.8%と向上。さらなる充実を図る。(○) イ・部活動加入率は33.4%。体験入部など働きかけを強めているが、経済的な理由もあり、伸び悩んでいる。(△) (2) ア・人権の肯定率は「学びたいこと」が73.5%、「機会がある」が85.9%と目標到達。策定した人権3年間計画が奏功。取組みを継続していく。(○) イ・SC、SSWについては計画的、継続的に活用できた。研修の場でも活用できた。今後とも継続していく。(○) (3) ア・連携行事等はコロナでほぼ実施できず。授業での活用は1月途中で50回。(○)
4 教職員の育成等	(1)組織的・継続的な育成 ア 教職経験の少ない教職員の育成 イ ミドルリーダーの育成 (2)働き方の改革 ア 業務の工夫・改善 イ 部活動の適正な実施の徹底	(1) ア・ミドルリーダーに教員研修を企画させ、研修内容に合わせた授業研究や分掌業務のOJTを全体で進める。特に経験の少ない教員については、全教員がかかわる機会を設定し、教師力を総合的に高める。 イ・教職経験年数が10年までの教員を学校組織の中核として配置し、振り返りや協議の場を定期的に設定し育成を図る。 (2) ア・会議の整理、分掌業務のスリム化と効率的な引継ぎの活用等、工夫・改善を促す。 イ・部活動の活動計画の徹底を図る。	(1) ア・年10回の教員研修の実施 ・学校教育自己診断(教職員)「経験少ない教職員の育成」の肯定率75%以上(令和元年度52.9%) イ・首席、分掌長や学年主任及びその候補を継続的に育成 (2) ア・委員会等の見直し、職員会議等の会議の回数減 ・分掌業務の引継ぎの効率化、教材等の共有化 ・時間外在校時間が長い教職員への指導 イ・部活動の活動計画の遵守・徹底 ・活動報告書に基づく指導	(1) ア・研修は10回実施、肯定率は47.8%、組織的にチームとして支援する体勢をとったが数値は下降。否定的な回答者の意見を聞き取り、対応を検討する。(△) イ・勉強会や個別面談など育成を図っている。(○) (2) ア・委員会、職員会議など会議数の減を実施、部活動など時間外については声かけを行い、土日にクラブによるもの以外の80時間越えはなくなった。(○)